



## 札幌市医師会市民対話集会2010 佐藤のりゆきの [ 高く大変! ~これじゃ医者にかかれぬ ] 対話集会報告

政策部長 宮崎 誠 一

今年も8月7日札幌市医師会主催の市民対話集会が行われました。テーマは昨年に続いて受診抑制の原因となっている外来自己負担の高さを取り上げました。佐藤のりゆきさんをコーディネーターとして招き、パネリストとして、札幌中央病院、医療連携相談課医療ソーシャルワーカー佐藤公一氏、札幌秀友会病院の白崎修一氏、札幌市医師会理事の笹本洋一氏、コメンテーターとして私、宮崎が参加して行いました。

最初に、笹本先生に受診抑制の実態を、平成20年、21年の北海道社会保険診療報酬支払基金、北海道国保連合会の資料を通して説明、日本医師会の資料も活用し、受診したくても外来負担3割が高く払えず受診を手控える実態を話してもらいました。札幌市の救急車の出動件数等の報告から、受診を手控えるため救急出動で、患者さんの重症化が進んでいることを話してもらいました。次に、白崎先生にもう少し医療機関への受診が早ければ、患者さんは重症化しなかったと思われる具体例をあげて話してもらいました。白崎先生はNASDAの宇宙飛行士試験を受けて最終選考の8人に残られた一人で、惜しくも宇宙飛行士にはならなかったんですが、話も洒脱で非常に話題の豊富な先生です。彼と、佐藤のりゆきさんとの、軽妙なやり取りで会場を沸かせました。佐藤公一氏には、ソーシャルワーカーの仕事の内容を説明していただき、実際、相談件数は増加していて、窓口



負担の増加に困っている事例、高齢者、自営業者の保険料滞納で満足な治療が受けられない事例を話していただきました。私は、医療費そのものは諸外国に比べて低いが、市場原理主義による自己責任論が小泉、竹中路線政治で幅を利かせた結果、外来自己負担は、諸外国に比べ高い実態を説明しました。最後に、佐藤のりゆきさんに、札幌市医師会は外来自己負担3割を2割に、高齢者の負担を保険料、自己負担を合わせて1割にという主張をしているとアピールしていただき終了しました。

当日の集会出席者は多く170名弱、来場していただきました。昨年と同じテーマで行ったんですが、皆さんの負担割合の高さに対する関心が高まっているのが伺えました。



札幌市医師会 会長 山光 進



コーディネーター 佐藤のりゆき 氏



札幌中央病院医療連携相談課  
医療ソーシャルワーカー 佐藤 公一 氏



札幌秀友会病院 白崎 修一 先生



札幌市医師会 理事 笹本 洋一



札幌市医師会 政策部長 宮崎 誠一